

上州ひと交差点

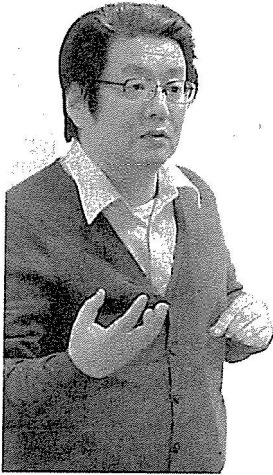
外国人医療の充実へ奮闘

群馬大学医学部付属病院の
研究員。外国人患者が安心し
て医療を受けられる環境づく
りに、人材育成と先端技術の
両面から挑む。

今年度、群馬大の「医療通
訳ボランティア育成講座入門
編」の講師を務めた。患者と
医者、通訳者が登壇するロー
ルプレイングでは、横浜市
国際交流協会のシナリオ「通
訳失敗物語」を紹介。医師が
発した「検査」という日本語
を外国人患者が「oance
r(がん)」と勘違いする場
面などを、受講者同士がやり

医療通訳講座の講師を務める群大病院研究員

滝沢清美さん (55)



とりした。計40時間の講座を
14人が修了。「活躍の一助に
なれば」と期待を込める。
一方で、「医療通訳はプロ
であるべきだ」が持論。「普
意の外国人支援というイメー

ジが強いが、医療スタッフの
一員として活動する方が存在
感が増すし、自活できれば優
秀な人材が集まる」。来年度
は電話やパソコン、タブレット
端末を利用した「遠隔医療
通訳講座」も担当し、修了者
には日本遠隔医療学会の公認
修了証を出す予定だ。「雇う

側の医療機関の安心感につな
がるでしょう」

システムエンジニアだった
知識と経験を生かし、29カ国
語の多言語問診票アプリを開
発済み。現在は日本語ができ
ない外国人や耳の不自由な人
のための緊急通報アプリを手
がける。母語でスマートフォン
を操作すると日本語の音声
に変換されて110番や11
9番のセンターに「SOS」
が届き、居場所もGPSで伝
わる仕組みだ。2020年東
京五輪に向け、外国人観光客
の増加は間違いない。「二一
ズはある。命を救うこのアプ
リを群馬モデルとして世界に
発信したい」(馬場由美子)

朝日
28面